



モザンビーク活動報告

2023年6月～2024年5月

「ユニセフ・マンスリーサポート・プログラム スクール・フォー・アフリカ」を通じた継続的なご協力に、心より御礼申し上げます。日本の皆さまのご寄付で、ユニセフは就学前教育の拡大と初等教育の質の改善を目的に、モザンビークにおける支援を継続しています。

モザンビークの小学校就学率は99%と高く、多くの子どもたちは教育の機会を得ています。しかしながら、入学後に様々な理由で退学する子どもたちがおり、学習の成果と小学校の修了率の面では課題が残されたままです。退学の理由に、教育の質の低さや学校までの距離、教育を重要視しない伝統や文化、限られた小学校卒業後の進路が挙げられます。特に女の子においては、早すぎる妊娠や児童婚、適切な衛生設備の不足などの要因があります。

子どもたちが、教育を通じて将来の選択肢を広げ、夢を実現するために日々歩いていけるよう、今後とも皆さまからの力強いご協力を、何卒よろしくご協力をお願いします。

持って生まれた可能性を伸ばす「就学前教育」



グループ活動の様子

▶▶ 短期集中就学準備プログラムの実施

ユニセフは5～6歳の子どもを対象に、**120時間**（8週間、週5日、1日3時間）の**短期集中就学準備プログラム**を実施しています。子どもたちは数の数え方や、ポルトガル語の言葉遊び、物語の読み聞かせなどにより基本的な算数とポルトガル語を身につけ、グループ活動を通じて情緒や社会性を育みます。そして、学習を経験し小学校の入学準備が整った子どもたちは、1年生でよりよい成績を修めることが期待されます。5～6歳の子ども**9,420人**（女の子6,659人、障がいのある子ども72人を含む）がプログラムに参加し、昨年に続き、参加したすべての子どもたちが小学校に入学することができました。

▶▶ 保護者による就学前教育への理解促進と教員の質の向上

子どもが就学前教育を受けられるためには、保護者がその重要性を理解することが必要です。幼児期の脳の発達、子どもの自尊心を育む方法、基本的な算数と言葉の教え方、成長過程における親の役割などを学ぶことが、子どもの教育の始まりに繋がります。プログラムに参加した子ども9,420人の保護者が、6週間にわたる**全13回**の講習会で、これらの知識を深めました。

また、子どもたちがスムーズに小学校での生活に適應できるように、1年生の**教員157人**が研修を受けました。遊びを取り入れた指導方法、子どもが学びやすい環境の作り方、保護者・子ども・教員・学校の関係構築の方法など、研修内容は多岐にわたりました。



保護者向け講習会の様子

モザンビークの風景

首都マプトの魚市場とフレッシュジュースの路上販売をご紹介します。魚はお昼ごはん用に、フレッシュジュースはおやつに買うことが多いようです。



魚市場

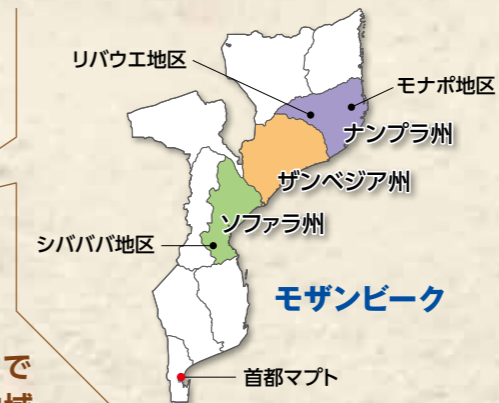


ジューススタンド



日本の皆さまからのご協力で教育支援を実施している地域

※国内でも教育面での課題が多く、教育指標が最も低いナンブラ州とソファアラ州、及びサイクロンによる甚大な被害を受けたザンベジア州が支援の対象です。



ユニセフ・モザンビーク事務所では、X (旧Twitter) で教育支援の内容や子どもたちの様子を配信しています。ぜひご覧ください！



https://www.unicef.or.jp/sfa/report/report_mztwitter.html

卒業後を見据えた初等教育の継続を目指して

▶▶ 教育の質の改善

ユニセフは、教育省が実施する教員を対象とした遠隔教育による研修を支援しています。その結果、教員の能力強化を目的とした学習センターや遠隔教育研修センターでインターネットサービスが利用できるようになり、遠隔教育のさらなる拡大が期待されます。また、他の教員をサポートできる経験豊富な**教員370人**が、スキル向上のために読み書きや算数の教え方に関する研修を受けました。

▶▶ 安全で健全な学校環境の実現

●**教育関係者400人**が、児童にライフスキル※を身につけてもらう方法について学び、特に、児童たちに、子どもに対する暴力への対処方法について教えることができるようになりました。暴力を経験した子どもが警察・保健所・学校から必要なケアを受けられるよう、あるいは他の子どもが通報できるための方法です。このような学校環境を整えることで、児童を暴力から守っています。

※ ライフスキル：日常生活に生じる様々な問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な力

- 95校の**児童600人**が、子どもの権利とライフスキルの普及・啓発を目指す学校のクラブ活動で、生理などのデリケートな問題の扱い方、暴力や児童婚、早すぎる妊娠などの防止方法について学びました。研修を受けた児童は、各学校の**児童合計3万人**にもこうした情報・知識を伝えていきます。
- 手洗い場を備えた男女別トイレが**21校**に設置され、児童は安心してトイレを利用できるようになりました。また、**36校**に設置されている、地域住民も使える給水所の定期的なメンテナンス・修理や、地域住民からの水の使用量の徴収などを担う**水管理委員会のメンバー426人**が、知識定着のための再研修を受け、メンテナンス技術や財務管理についての理解を深めました。

▶▶ 効率的な学校運営

95校の**学校運営委員会メンバー1,590人**が、早すぎる妊娠や児童婚の事例の把握と専門機関への報告、児童の退学や欠席の防止における役割と責任について学びました。研修は、子どもに対する暴力への対処や、教育省が学校に直接提供する学校支援金の管理における能力強化も目的としています。



クラブ活動に参加する子どもたち

緊急事態下で教育を届ける

2023年2月に発生したサイクロン・フレディは、史上最も長く続いたサイクロンで、モザンビークに2度上陸しました。ユニセフは被害が最も大きかったザンベジア州で、仮設学習スペース**20棟**を建設し、**被災した児童2,200人**に学習キットを配布しました。緊急事態下であっても、子どもたちの教育の機会が奪われることがあってはなりません。



学習キットを手に笑顔の子どもたち